

質問	エソメプラゾールカプセル 20mg「ケミファ」の簡易懸濁法での投与は可能ですか？
回答	エソメプラゾールカプセル 20mg「ケミファ」は、55℃の温湯 20mL で 10 分放置後、注入器を 180 度 15 往復横転し崩壊・懸濁の状況を確認したところ、カプセルは完全に崩壊・懸濁せず、12、14Fr.のチューブを通過しましたが、顆粒の一部が押し子の先端に残りました。適量の水でフラッシングを 2 回行ったところ、12Fr.チューブでは顆粒の一部が押し子の先端に残ったままでしたが、14Fr.チューブでは顆粒が残りませんでした。 なお、懸濁液の pH は 6.43 でした。 詳しくは添付のデータをご覧ください。 本資料の情報に関する注意：本資料には承認を受けていない品質に関する情報が含まれます。試験方法等が確立していない内容も含まれており、あくまでも記載されている試験方法で得られた結果を事実として提示しているものです。医療従事者が臨床適用を検討する上での参考情報であり、加工等の可否を示すものではありません。
参考資料	【エソメプラゾールカプセル 20mg「ケミファ」】 簡易懸濁法に関する資料